POSTER SESSION

実地臨床の新規または降圧不十分高血圧患者に対する新規直接的レニン阻害薬アリスキレンの降圧効果及び血管弾性に対する効果

羽鳥　裕 氏　医療法人社団はとりクリニック

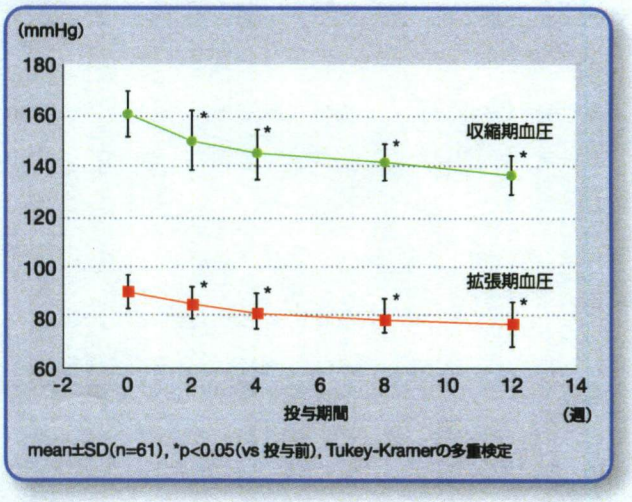
実地臨床の高血圧外来での アリスキレンの有効性を検証

実地臨床の高血圧外来では血圧管理不十分例が少なくなく、新規作用機序を有するアリスキレンに対する期待が大きい。はとりクリニックの羽鳥氏は、これまでの臨床試験で報告された同剤の有効性が実地臨床の場でも再現できるか、自身の高血圧外来で検証した。

不均一な患者群でも アリスキレンの有効性が確認された

対象は、新規症例25例を含む投与前収縮期血圧140 mmHg以上の61例（平均年齢66.2歳）で、アリスキレン150 mg/日を12週間投与し、血圧、脈波伝播速度を測定した。その結果、診察室血圧は収縮期、拡張期ともに2週目から有意に低下し（$p<0.05$ vs 投与前; 図）、新規群25例、切り替え群11例、併用群25例、全例での家庭血圧も全く同様の推移を示した。また、12週時点での脈波伝播速度も有意に減少した（$p<0.001$ vs 投与前）。血清K値および尿酸値、他の臨床検査値に有意な変動はなく、問題となる有害事象も認められなかった。以上の結果について羽鳥氏は、実地臨床の不均一な患者群において、アリスキレンの有効性と安全性が確認されたとした。

図　診察室血圧推移



POSTER SESSION

既治療高血圧患者に対する、直接的レニン阻害薬アリスキレンの追加投与効果に関する検討

米田　実 氏 ほか　JA福島厚生連 ヘルスサイエンスリサーチ

既治療降圧不十分例で アリスキレン追加の有効性を検討

未治療高血圧患者におけるアリスキレンの有効性は確認されているが、既治療降圧不十分例への追加投与に関する報告は少ない。そこでJA福島厚生連の米田実氏らは、各種降圧薬投与中で目標血圧未達成の16例（平均年齢68.4歳）にアリスキレン150 mg/日を追加投与し、12週間にわたる経過を観察、同剤の血圧と臨床検査値への影響を検討した。

アリスキレンは早朝家庭血圧を 有意に低下させ、忍容性も良好

検討の結果、診察室血圧に有意な変化はなかったが、家庭早朝血圧において収縮期血圧は8週時から、拡張期血圧は12週時において有意な低下を認めた（$p<0.01$ vs コントロール; 図）。一方、臨床検査値に有意な変化はみられず、有害事象による中止、減量もなかったことから忍容性も良好と考えられた。この結果を踏まえて米田氏は、アリスキレンの既治療降圧不十分例への追加投与は、良好な忍容性のもとに降圧効果を期待できる選択肢であると評価した。

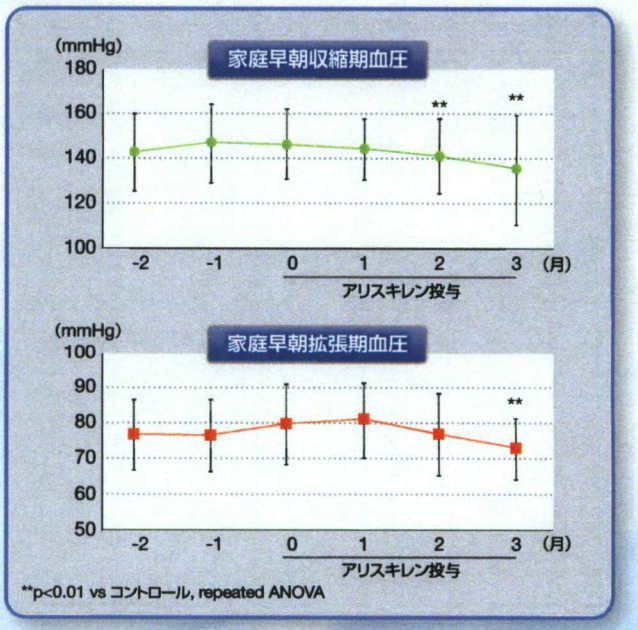



図　アリスキレンの追加投与が家庭早朝血圧に与える効果